

在宅介護・地域包括支援センターによる介護サービス未利用者の定期的な実態把握

1 経緯・目的

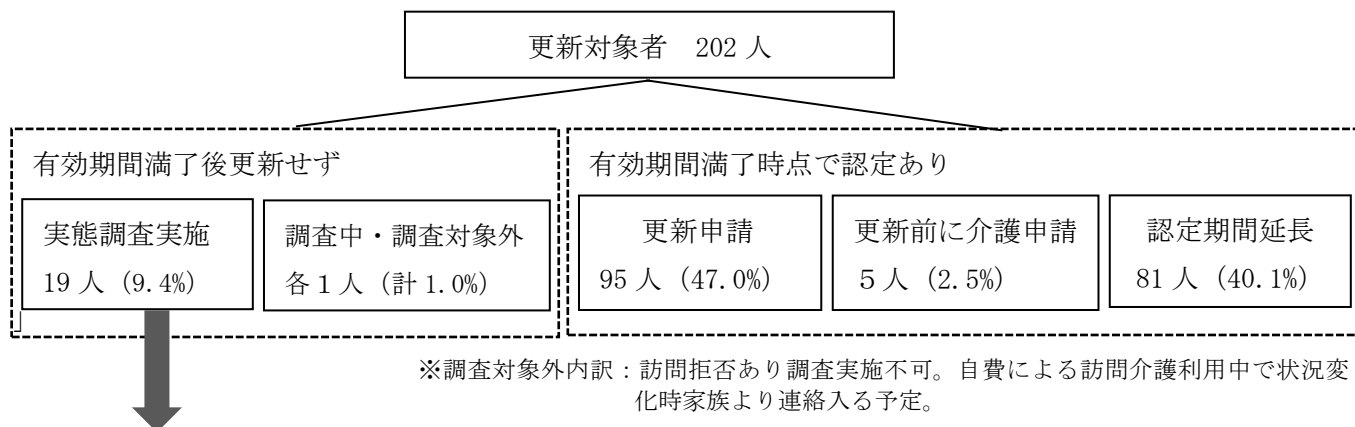
平成27年10月の総合事業の開始以降、介護サービス未利用のため要介護認定の更新申請をせずに有効期間満了した方の中で、改めて新規申請した際に前回より重症化しているケースが見られた。介護サービス未利用者の定期的な実態把握を行うことで、早期に必要な支援を行い、重症化予防につなげる。

2 調査期間

令和3年4月から令和3年9月まで

3 調査対象者及び調査時期

前回の介護度が要支援1・2の介護サービス未利用者。令和3年5月末から令和3年10月末に要介護認定の有効期間満了を迎える更新時に、更新申請を行わなかった者に対し在宅介護・地域包括支援センター職員が訪問または電話にて実態把握を行った。



3 調査項目及び調査結果

	質問項目	はい	いいえ	未回答
1	この1年間の体調変化がありましたか	3 人 (15.8%)	16 人 (84.2%)	0
2	1で「はい」と答えられた方→それはどのようなことですか ・令和2年は大腿骨骨折後だったが現在は元気になった ・以前より疲れやすくなった ・1年前に手首に入れた金具を取るため入院、手術した			
3	身の回りのことをご自身でできますか	18 人 (94.7%)	1 人 (5.3%)	0
4	世帯構成	ひとり 4 人 (21.1%)	高齢者のみ 6 人 (31.6%)	その他 9 人 (47.4%)
5	生活のお手伝いをしてくれる人はいますか	18 人 (94.7%)	1 人 (5.3%)	0
6	15分くらい続けて歩いていますか	17 人 (89.5%)	2 人 (10.5%)	0
7	週に1回以上は外出していますか	17 人 (89.5%)	2 人 (10.5%)	0
8	普段就労や介護予防事業等に参加していますか	8 (42.1%)	11 (57.9%)	

	8「はい」の内訳：就労1人（5.3%）、いきいきサロン3人（15.8%）、地域健康クラブ1人（5.3%）、武蔵野総合体育館の各種講座1人（5.3%）、民間のスポーツクラブ1人（5.3%）、その他1人（5.3%） ※その他内訳：書道教室と麻雀教室			
9	日常生活の中で、気になるような物忘れがありますか	2（10.5%）	17（89.5%）	0
10	体調が悪い時や災害時などに、手助けしてくれる家族や親戚、知人等がいますか （11は緊急連絡先記入）	18（94.7%）	1（5.3%）	0
12	定期的に通院をしていますか （13は通院先記入）	18（94.7%）	1（5.3%）	0
14	定期的に内服薬を処方されていますか	17（89.5%）	2（10.5%）	0

4 次回の訪問時期

区分	訪問時期	人数（割合）
A	1か月後	0
B	3か月後	0
C	6か月後	3人（15.8%）
D	1年後	2人（10.5%）
E	実態把握終了	14人（73.7%）

- ・次回訪問時期を「C（6か月後）」とした対象者3人は、「15分くらい続けて歩いていますか」「週に1回以上は外出していますか」「定期的に通院をしていますか」の項目において、2項目以上該当した。

5 訪問時の対応

- ・訪問時、18人の調査対象者に「在宅介護・地域包括支援センターの連絡先」を周知した。
- ・サービスの利用要件に該当する方2人には「レスキューヘルパー（高齢者等緊急訪問介護）事業」、2人には「高齢者安心コール事業」の案内を行った。

6 実態調査後新規申請状況

- ・実態調査を実施した19人のうち、調査実施後要介護認定申請に至った人は1人（5.3%）だった。

7 令和3年度の課題

「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱いについて（その4）」（令和2年4月7日厚生労働省老健局老人保健課事務連絡）に基づき、本市では本人が希望する場合要介護認定等の有効期間延長について対応をとっている。令和3年度上半期の認定期間延長者81人は全更新対象者の40.1%にあたり、現時点では令和2年度の32.4%より高い傾向にある。自粛生活が長期化し、転倒等をきっかけに日常生活が困難になるリスクが高まっている状況であり、認定期間延長者の実態把握とアプローチについて課題として対応を検討していく。